

0023-01

会場：303

時間：5月23日 12:05-12:25

## 隠岐地域

野辺 一寛

隠岐ジオパーク推進協議会

### 1. はじめに

隠岐諸島は、島根半島の北 40km~80km の日本海に点在する 4 つの有人島と 180 余りの無人島からなり、本土側からみて手前側にある 3 島を島前（どうぜん）と呼び、後ろ側にある円形の島を島後（どうご）と呼ぶ。

隠岐は石器時代における黒曜石の産出に始まり、北前船の風待ち港として栄えた明治 30 年頃まで日本海交流の拠点として文化的、経済的に繁栄し、古くから防衛上の重要拠点ともされ、島でありながら「隠岐の國」として呼ばれてきた。

聖武天皇の時代、神亀元年 724 年に遠流の地として定められてからは、小野篁、後鳥羽上皇、後醍醐天皇などが配流された流人の島としても知られている。

### 2. 日本の記憶が息づく島“隠岐”

隠岐は大陸の縁辺であった時代、湖の時代、海の時代、島根半島の先端の時代と形を変えながら、今から約 1 万年前に現在のような離島となった。隠岐では、それぞれの時代の証拠となる地質現象を観察することができ、小さな島に凝縮されていることが最大の特徴である。

また、隠岐のもう一つの特徴として生物の多様性があげられる。島の成り立ちと対馬暖流の影響を受けることから、北方系、南方系、高山性、低山性、大陸系、氷河期時代の生き残りの植物が同じ場所に生息しており、南方系の植物であるナゴランが北方系のモミノキに着生して自生するなど他の地域では見ることの出来ないような不思議な自然現象を観察することができる。高山性植物や高山性生物の低地化、11 月まで色鮮やかに咲く紫陽花など、隠岐では普通に見られる光景についてこれまで知られていなかったが、地形・地質と生態系の関係など、隠岐では 2000 年頃から民間団体が中心となってその調査に取り組んでいる。

### 3. 市民活動からのジオパーク

隠岐には興味深い自然環境や歴史が今なお残されているのだが、地域住民はもとより観光事業者も知らないため観光資源として活用されていない状況であった。また、隠岐の持つ貴重性が認識されていなかったため、マニアなどによる不法採取も頻繁に見られる状況であった。こうした状況の中、隠岐地域の活性化を目的として 2003 年 5 月に設立されたまちづくりグループ『風待ち海道倶楽部』では、隠岐ならではの歴史・文化・自然環境を守り、それらを活かした地域振興・観光振興に取り組んでおり、こうした活動が 2009 年 6 月に隠岐 4 か町村から構成された隠岐ジオパーク推進協議会の設立へとつながった。